

授業科目名	母性看護学実習	担当教員名	准教授 橋本美幸 他		
開講年次及び学期	3年 後期	必修・選択の別	必修		
開講形態	実習	時間数	90	単位数	2
授業概要					
<p>妊娠・分娩・産褥期にある女性と胎児・新生児、およびその家族を対象とし、各時期の身体的・心理的变化、社会的側面の影響について理解し、リプロダクティブ・ヘルスケアを実践するための援助方法を学ぶ。分娩期から産褥期の母親と胎児・新生児の両者を受け持ち、対象の健康状態をアセスメントし、対象が持つ能力や強みを最大限に発揮できるための看護を行う。</p>					
G I O（教育目標）					
<p>妊娠・分娩・産褥(育児)期および新生児期にある母児とその家族の健康課題(問題)を理解し、対象のセルフケア能力を高める看護を提供できる能力を養う。 人の性と生殖に関する意義を理解し、女性の生涯を通してのリプロダクティブ・ヘルスにおける看護と看護職者の役割を学ぶ。</p>					
S B O（到達目標）					
<p>1. 妊娠・分娩・産褥・育児期および新生児期にある母児とその家族の身体的・心理的・社会的変化を理解したうえで、看護計画を立案し、援助を行うことができる。また、実践した援助について振り返りができる。</p>					
1) 妊娠期					
(1) 妊娠期にある女性とその家族の身体的、心理的、社会的変化について理解し、健康課題についてアセスメントできる。					
(2) 対象の健康課題(問題)から適切な援助を考え、実践できる。					
(3) 胎児の成長・発育について理解し、アセスメントできる。					
(4) 妊娠期の異常について理解し、その予防にむけた援助や健康教育計画を立案できる。					
2) 分娩期					
(1) 分娩第Ⅰ～Ⅳ期の産婦の身体・心理状態、胎児のwell-beingについて理解し、産婦と胎児の健康課題(問題)についてアセスメントできる。					
(2) 分娩期の産婦のニードについて理解し、援助を考え、実践できる。					
3) 産褥(育児)期					
(1) 産褥期にある女性とその家族の身体的・心理的・社会的変化について理解し、健康課題についてアセスメントできる。					
(2) 対象の健康課題(問題)から適切な援助を考え、実践できる。					
(3) 退院後の母親と家族への継続的支援を考えることができる					
(4) 行政の母児への支援サービス情報について理解し、活用できる。					
(5) 出生直後から母児分離を強いられた家族への看護について理解できる。					
4) 新生児期					
(1) 胎児と新生児の違いを理解し、新生児の母体外生活への適応上の健康課題(問題)をアセスメントできる。					
(2) 新生児の生理的变化について理解し、正常および正常からの逸脱をアセスメントでき、異常徴候の早期発見ができる。					
(3) ハイリスク新生児の看護の実際について理解できる。					
2. 地域における母子支援活動の役割や方法について理解し、医療施設内外の多職種間の連携・協同について理解できる。					
3. リプロダクティブ・ヘルスにおける看護職者の役割を理解し、保健医療チームの一員としての責任を果たすことができる。					
4. 母性看護学における倫理的態度について理解できる。					
成績評価の方法					
実習記録40%、実習への取り組み(実習態度、カンファレンス参加状況)40%、レポート(NICU見学実習、助産院見学実習、母性看護学実習まとめ)20%					
教科書・参考書・視聴覚・その他の教材					
<ul style="list-style-type: none"> ・別冊「臨地実習の手引き」を配布する。 ・母性看護学援助論で使用した教科書、資料全ての教材 					

授業計画

<実習施設・場所>

1. 島根大学医学部附属病院 AB病棟3階および産婦人科外来, C棟NICU
2. 比良(ひら)助産院(出雲市今市町1661-19 TEL0853-23-1280)
3. 島根大学医学部附属病院 クリニカルスキルアップセンター
4. 看護学科棟第1実習室

<実習予定>

時間	8:30	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	16:30	
1 週目	月	学内オリエンテーション (8:30~10:00)		病棟オリエンテーション 受け持ち対象者決定後, 情報収集・ アセスメント・看護計画立案			新生児観察(スキルアップセ ンター) 担当: 佐藤直先生				
	火	病棟実習: 立案した計画に基づき看護援助実践 看護過程の展開							ミニ カンファレンス		
	水	病棟実習		同上			ミニ カンファレンス				
	木	病棟実習		同上			ミニ カンファレンス				
	金	病棟実習				13:30~ カンファレンス I		病棟実習			
2 週目	月	病棟実習							ミニ カンファレンス		
	火	病棟実習							ミニ カンファレンス		
	水	病棟実習 NICU見学実習		病棟実習				ミニ カンファレンス			
	木	病棟実習 NICU見学実習		病棟実習				カンファレンス			
	金	助産院見学実習			学内最終カンファレンス			実習のまとめ			

※祝日や実習施設の都合で予定を変更する場合があります。

<実習内容>

1. 病棟実習(島根大学医学部附属病院)
 - 1) 原則として1組以上の母子を受け持ち, 看護過程を展開する。
 - 2) NICU病棟にてハイリスク新生児のケアの実際を理解する。実習終了後は実習レポートを提出する。
2. 助産院見学実習
 - 1) 開業助産師から施設や看護活動について説明を聞き, その後意見交換を行う。

<実習の進め方>

1. 日々の行動計画(様式10)を事前に立案し, 受け持ち患者への朝の挨拶や電子カルテから情報収集を行う中で実施可能か判断し, 必要時は目標・計画を修正する。
2. 実習初日に収集した情報を基に, 次の日までに看護計画を立案する。
3. 看護目標および行動計画は, 臨床実習指導者あるいはその日の受け持ち看護師に発表し, 指導を受ける。指導を受けた内容については, 赤字で記録し, 指導までの記録を消さない。
4. 実習中に得られた情報や観察事項については全て臨床指導者に報告する。
5. 受け持ち患者および妊産褥婦, 新生児へのケアの実践(観察も含む)では, 必ず臨床指導者もしくは担当教員に同行を求める。
6. 保健指導を行う際には, 各施設の母科学級テキストの内容を事前に把握する。また, 事前に担当教員に相談のうえ指導計画を立案し, 臨床指導者へ指導日の前日の朝までに指導計画を提出し, 助言をいただいたうえで, 臨床指導者の指導の下で実施する。

授業計画

<カンファレンス>

カンファレンスの進行については、必ず学生間で事前に話し合いを行い、主体的に行うように務める。

1) カンファレンス I

- (1) 目的：看護過程の展開を振り返り、次週実習の自己の実習課題について明らかにする。
- (2) 方法：ケースカンファレンス
- (3) 資料：受け持ち事例の看護過程をA4用紙1枚程度にまとめる(記録様式11)。
- (4) 資料提出：第1週金曜日8:30(時間厳守)に担当教員に提出

2) 最終カンファレンス

- (1) 目的：2週間の実習を通して学んだこと及び実習目的に対する達成度や課題を発表することにより、自己の看護を振り返り評価する。
- (2) 方法：目的に沿った内容でカンファレンスを行う。2週間の実習を振り返り、考えを整理して臨む。
- (3) 場所：原則として看護学科第1実習室
- (4) 資料：目的に沿ったカンファレンス資料を各自準備すること。事前提出は不要。

<実習中の記録について>

- 1) 「事前学習レポート」は、実習初日の第1週月曜日の8時30分に提出する(事前学習レポートの内容については実習の手引き「VI. その他」を参照)。
- 2) 受け持ち事例の記録(母性看護学実習記録様式1~9のうち該当する記録様式)は、毎日提出する。
- 3) 母性看護学実習記録様式11は、毎日記載してくること。前日分の記録様式11は、翌朝に当日の記録様式11と一緒に提出する。
- 4) 上記2)と3)の記録は、その日のケアプラン発表後、担当教員が指示した所定の場所に提出する。

<実習記録の最終提出>

記録一式を、実習終了翌週の月曜日13:00(時間厳守)までに、担当教員へ直接提出する。提出期限の延長は原則として認めない。

※個人情報保護のため実習中の記録用紙は、紙ファイルに必ず綴じて持ち運びし、ファイルから外してはならない。